

運 営  
2007年度

# 1. 技 術 部

## (1) クロップिंगシステム部門

平成19年度における当部門が担当した圃場面積は136.9a, 作付面積は春作135.7a (露地118.3a, ビニルハウス11.2a, 温室6.2a), 秋作126.7a (露地110.3a, ビニルハウス10.2a, 温室6.2a) で総作付面積は262.4a, 作付け率は192%であった。前年度は基盤整備(整地)に取り組んだため裏作の面積が減少したが, 今年度は緑肥栽培など裏作の作付けを増やすことができ, その結果作付け率は前年より大幅に増加した。

基盤整備的な課題としては, (1)温室内に育苗ミニハウスを設置し, その内部には温床線の埋設を行い, (2)温室に種イモを貯蔵するミニハウスを設置した。また, (3)新規作目としてメロン・ズッキーニ・ショウガを導入し, (4)南小温室には防蛾灯を設置した。

第1表に耕種概要を示した。カンショは順調な生育となり, 初期生育は良好で, 6月下旬に一部にアブラムシの発生が見られたものの, その後は順調に推移した。夏季に雨が少なく9月に入っても残暑が厳しく生育がやや衰えたが灌水を充分行って回復した。病害虫の発生も少なく, 生産量は約3.8トンでほぼ例年なみであった。例年通り主として芋掘り(園児を対象)に供し, 好評を得た。雑草対策として畦間に籾殻を入れ(学生実習), また昨年度使用した古マルチを敷き再利用し, いずれも好成績を得た。

エダマメは移植栽培(ビニルマルチ)を行った。育苗は高設ベッドで行い, 定植の労力を軽減するためハンドプランターを導入した。その後の栽培は精密に行うことができ, 生育も順調であった。カメムシの発生で一部食害も見られたが, 実害は少なく, マルチ栽培により泥の跳ね上がりがなくなり順調に販売できた。総生産量は例年を上回った。

スイートコーンは移植栽培(ビニルマルチ)を行った。エダマメ同様育苗は高設ベッドで行い, マルチ栽培で移植を行ない(ハンドプランター)除草効果もあった。畝立てのため湿害もなく, アワノメイガなど害虫による食害も少なく高品質となった。デパートにも多く出荷でき, 収量・生産量は昨年度を

大幅に上回った。

カボチャの初期生育は, 栽培順調であったが, 6月下旬にウドンコ病の発生が多く発生した。薬剤散布により被害を軽減でき, 生産量は最近数年では最高となった。

新規作目として, ズッキーニを導入し移植栽培で行った。初期生育は順調であった。7月上旬にウドンコ病が発生したが, 薬剤散布を行い被害は少なかった。高品質であったのでデパートにも出荷する事ができた。

メロンは温室で省力栽培(地這)により行った。育苗に工夫を要したが, 定植後の生育は順調であった。デパートにも少量ながら出荷できた。

初めて取り組んだショウガは, 病害虫の発生も少なく順調に栽培できた。

春作カンランでは, 定植をハンドプランターで行った。不織布被覆資材(パオパオ)により移植直後から被覆した。モンシロチョウはほぼ完全に防護でき, ヨトウムシの害も前年同様少なく生育は順調であった。

秋作カンランは, 定植時の高温が活着に悪条件となり数度の補植を要した。移植直後から春作と同様被覆栽培とした。被覆による保温効果が高く, また防虫に効果を発揮し, 殺虫剤の使用量を軽減する事ができた。

春作ブロッコリーも定植をハンドプランターで行った。移植直後から被覆し, ヨトウムシの害は, 前年同様少なく生育は順調であった。

秋作ブロッコリーも被覆栽培とした。ヨトウムシの害は, 前年同様少なく生育は順調であった。

ハウレンソウの生育は順調であったが, 一部に収穫直前の虫害(ヨトウムシ)があった。ゴールデンウィーク前に適期収穫ができず抽台したものもあったが, まずまずの生産を得た。

ネギは実習の定植作業が雨天のため中止となり, 労力的にやや苦慮した。定植後ヨトウムシによる虫害があり, 欠株が生じ生育はやや不揃いで, 生産は

例年を下回った。

レタスの春作も移植直後から被覆した。シスコ（結球型品種）は作期を早め適期に収穫ができた。秋作では非結球品種レッドウェーブは生育が順調で虫害も少なかった。各種作目で試みてきた高設育苗 - ハンドプランター - ビニルマルチの栽培技術体系が一応確立した。

ハウスのニラは灌漑の自動化により、灌水がいきわたり、例年に比べ生育が旺盛で高品質となり、前年を上回る収穫を得た。

ハウスのシュンギクも灌漑の自動化により、発芽揃いもよく、生育は順調であった。

サトイモは初めてビニルマルチ栽培を試みた。初期生育は順調であったものの、9月中旬にヨトウムシ・アブラムシの食害が多く、灌水が不十分で、例年を下回る実績となった。

ダイコン春作で抽台したものが多かった。販売量の関係で収穫時期が遅れ大きくなりすぎたものがあった。肌質の悪いものも見受けられた。秋作では、初回に栽培した区で発芽ぞろいが悪く、生育初期に虫害による欠株もあった。例年を下回る結果となった。

ニンジンも発芽ぞろいが悪く、また初期に虫害を多く受け、不十分な結果となり課題を残した。

バレイショ（春作）は、収穫を実習でも行い、天候にも恵まれ順調に収穫・収納ができた。ビニルマ

ルチによる栽培を試み、雑草回避の利点とともに収量・品質とも露地（中耕・培土）に遜色のない結果が得られた。秋作バレイショは定植時に残暑が厳しく高温のため定植が遅れた。収穫も遅れたがまずまずの結果であった。

ハボタンは育苗中の生育が遅れたが、その後は順調であった。しかし生産量は不十分な結果となった。

南小温室では、昨年と同様高温でも栽培可能なクウシンサイ・ツルムラサキの温室高設栽培を行った。昨年、虫害（ダニ・アブラムシ）の発生が多かったので虫害対策として防蛾灯を設置した。夏季野菜に多く発生する虫害の軽減を意図したが、ヨトウムシ・ダニ・アブラムシの発生が見られた。高設培養槽の冬季利活用として、クウシンサイ・ツルムラサキが終了（抽台）した後シュンギク・ホウレンソウを栽培し、まずまずの結果を得た。

クロッピングシステム部門を担当して2年間太らずの期間であったが、部門の先生のご指導のもとビニルハウスの灌水の自動化・夏野菜の高設栽培・新規作目の導入など色々な課題に取り組む事ができた。

平成20年から他部門に配置換えになるが、これまで経験したことを生かしたい。

（山本 昭）

耕種概要2007年

作 目	コード	圃場	面積 a	品 種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培 密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm	播種 日	定植 日	収穫 始	収穫 終	施肥量 kg/10a			
														N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	基肥量 kg/10a
カンシヨ(1)	90	西5	10.0	ベニアズマ	3849.3	1925	3333	120	25	-	5/8-15	8/8	-	8.0	19.0	16.5	8.0 19.0 16.5
カンシヨ(2)	90	西4	10.0	ベニアズマ	*	*	833	120	25	-	5/22-24	-	10/31	8.0	19.0	16.5	8.0 19.0 16.5
エダマメ(1)	167	ハウス4	2.1	宝石枝豆	161.0	767	333	60	20	3/5	3/26	6/6	6/15	0.0	0.0	0.0	0.0 0.0 0.0
エダマメ(2)	91	西4	1.0	宝石枝豆	1211.0	1211	333	60	50	3/14	4/3	6/21	6/27	10.1	18.8	20.8	10.1 18.8 20.8
エダマメ(3)	91	西4	1.0	宝石枝豆	*	*	333	60	50	3/22	4/10	7/2	7/5	10.1	18.8	20.8	10.1 18.8 20.8
エダマメ(4)	91	西4	1.0	宝石枝豆	*	*	333	60	50	4/3	4/23	7/18	7/31	10.1	18.8	20.8	10.1 18.8 20.8
エダマメ(5)	91	西4	1.0	宝石枝豆	*	*	333	60	50	4/10	5/16	8/1	-	10.1	18.8	20.8	10.1 18.8 20.8
エダマメ(6)	91	西4	1.0	北海黒枝豆	*	*	333	60	50	5/7	5/30	-	-	10.1	18.8	20.8	10.1 18.8 20.8
エダマメ(7)	91	西4	1.0	北海黒枝豆	*	*	333	60	50	5/16・18	6/6	-	8/28	10.1	18.8	20.8	10.1 18.8 20.8
エダマメ(8)	91	西4	1.0	北海黒枝豆	*	*	333	60	50	5/25	6/14	10/16	-	10.1	18.8	20.8	10.1 18.8 20.8
エダマメ(9)	91	西4	1.0	北海黒枝豆	*	*	333	60	50	6/5	6/27	-	-	10.1	18.8	20.8	10.1 18.8 20.8
エダマメ(10)	91	西4	1.0	北海黒枝豆	*	*	333	60	50	6/20	7/4	-	8/28	10.1	18.8	20.8	10.1 18.8 20.8
エダマメ(11)	91	西4	1.0	丹波黒豆	*	*	278	60	60	6/26	7/4	10/16	10/22	10.1	18.8	20.8	10.1 18.8 20.8
カボチャ(1)	177	西2	5.0	赤ずきん	476.2	952	14	400	180	3/22	4/24	7/9	7/19	21.3	18.0	17.0	21.3 18.0 17.0
カボチャ(2)	178	西5	2.0	隼人	224.5	748	14	400	180	3/22	4/24	7/9	7/19	21.3	18.0	17.0	21.3 18.0 17.0
カボチャ(3)	178	西1	1.0	隼人	*	*	14	400	180	3/22	4/24	7/9	7/27	21.3	18.0	17.0	21.3 18.0 17.0
カボチャ(4)	179	西5	2.0	利休	133.9	670	14	400	180	3/22	4/24	7/9	7/19	21.3	18.0	17.0	21.3 18.0 17.0
ズッキーニ	308	西3	1.0	ブラックスカシカ他	206.5	2065	205	65	75	4/10	4/25	6/4	8/14	21.3	18.0	17.0	21.3 18.0 17.0
トウガン	310	西3	3.0	トウガン ヒメトウガン	393.0	1275	85	65	180	4/10	5/14	7/24	8/14	21.3	18.0	17.0	21.3 18.0 17.0
スイートコーン(1)	222	西3	1.0	カクテル600	1764.0	5880	308	65	50	3/22	4/4・5	6/26	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
スイートコーン(2)	222	西3	1.0	カクテル600	*	*	308	65	50	4/3	4/12	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
スイートコーン(3)	222	西3	1.0	カクテル600	*	*	308	65	50	4/12	4/23・26	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
スイートコーン(4)	222	西3	1.0	カクテル600	*	*	308	65	50	5/7	5/17	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
春カンラン(1)	95	西1	0.5	マルシエ	873.4	4367	308	65	50	1/24	2/21	5/14	5/24	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
春カンラン(2)	95	西1	0.5	春波	*	*	308	65	50	2/2	2/27	6/1	6/20	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
春カンラン(3)	95	西1	0.5	彩里	*	*	308	65	50	2/8	3/9	6/25	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
春カンラン(4)	95	西1	0.5	おきな	*	*	308	65	50	3/5	4/5	-	7/11	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
カンラン(1)	95	温室A	1.4	彩里	242.4	-	308	65	50	9/13	10/3	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
カンラン(2)	95	西4	0.5	おきな	*	*	308	65	50	7/20	8/21	11/16	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
カンラン(3)	95	西4	0.5	南宝	*	*	308	65	50	7/20	8/21	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
カンラン(4)	95	西4	0.5	春波	*	*	308	65	50	8/23	9/14	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
カンラン(5)	95	西4	0.5	湖月	*	*	308	65	50	8/2	8/29	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
カンラン(6)	95	西4	0.5	彩里	*	*	308	65	50	8/2	8/29	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0

耕種概要2007年

作 目	コード	圃場	面積 a	品 種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培 密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm	播種 日	定植 日	収穫 始	収穫 終	施肥量 kg/10a		
														N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
春プロッコリー(1)	119	西1	0.5	ハイッ	60.7	552	307	65	50	1/24	2/21	5/11	-	213	18.7	17.0
春プロッコリー(2)	119	西1	0.3	ハイッ	*	*	307	65	50	2/22	3/16	-	-	213	18.7	17.0
春プロッコリー(3)	119	西1	0.3	ハイッ	*	*	307	65	50	3/5	4/9	-	6/19	213	18.7	17.0
プロッコリー(1)	119	西4	0.5	ハイッ	10.6	-	307	65	50	8/2	8/29	11/16	-	213	18.7	17.0
プロッコリー(2)	119	西4	0.5	ハイッ	*	*	307	65	50	9/4	10/2	-	-	213	18.7	17.0
春カリフラワー(1)	119	西1	0.3	スノークラウン	27.8	463	307	65	50	1/24	2/21	5/21	-	213	18.7	17.0
春カリフラワー(2)	119	西1	0.3	スノークラウン	*	*	307	65	50	2/22	3/16	-	6/19	213	18.7	17.0
カリフラワー(1)	106	西4	0.5	スノークラウン	-	-	307	65	50	8/2	8/29	-	-	213	18.7	17.0
ハボタン(1)	103	西3	0.7	F1白・紅はと	213.0	1065	385	65	40	8/16	9/14	11/14	-	213	18.7	17.0
ハボタン(2)	103	西3	0.7	F1白・紅すずめ	*	*	385	65	40	8/16	9/18	-	-	213	18.7	17.0
ハボタン(3)	103	西3	0.7	F1初紅・初紅	*	*	385	65	40	8/16	9/18	-	12/26	213	18.7	17.0
春ホウレンソウ(1)	105	西1	0.5	リード	248.3	828	1026	65	15	2/23	-	4/12	-	213	18.7	17.0
春ホウレンソウ(2)	105	西1	0.5	リード	*	*	1026	65	15	3/9	-	-	-	213	18.7	17.0
春ホウレンソウ(3)	105	西1	0.5	リード	*	*	1026	65	15	4/3	-	-	-	213	18.7	17.0
春ホウレンソウ(4)	105	西1	0.5	おかめ	*	*	1026	65	15	4/19	-	-	-	213	18.7	17.0
春ホウレンソウ(5)	105	西1	1.0	おかめ	*	*	1026	65	15	4/20	-	-	6/4	213	18.7	17.0
春ホウレンソウ(6)	105	西4	1.0	リード	*	*	1026	65	15	10/23	-	-	-	213	18.7	17.0
ホウレンソウ(1)	170	ハウス4	1.4	リード	55.5	396	1026	65	15	9/12	-	10/29	-	213	18.7	17.0
ホウレンソウ(2)	105	西4	0.5	リード	67.0	-	1026	65	15	9/26	-	-	-	213	18.7	17.0
ホウレンソウ(3)	105	西4	0.5	リード	*	*	1026	65	15	10/10	-	-	-	213	18.7	17.0
ホウレンソウ(4)	105	西4	0.5	リード	*	*	1026	65	15	10/12	-	-	-	213	18.7	17.0
ホウレンソウ(5)	105	西4	0.5	リード	*	*	1026	65	15	10/19	-	-	-	213	18.7	17.0
ホウレンソウ(6)	105	西4	1.0	リード	*	*	1026	65	15	10/23	-	-	-	213	18.7	17.0
春ネギ	233	ハウス6	1.5	九条ねぎ	0.0	0.0	513	65	条播	3/5	4/9	-	-	213	18.7	17.0
ネギ(1)	117	西3	6.0	九条ねぎ	379.7	633	385	65	30	4/10	7/18	11/1	-	213	18.7	17.0
春レタス(R1)	218	西1	0.5	レッドウエーブ	191.3	1913	385	65	40	1/24	2/21	4/12	-	213	18.7	17.0
春レタス(R2)	218	西1	0.5	レッドウエーブ	*	*	385	65	40	2/21	3/15	-	-	213	18.7	17.0
春レタス(C1)	214	西1	0.5	シスコ	205.6	2056	385	65	40	1/24	2/21	5/2	-	213	18.7	17.0
春レタス(C2)	214	西1	0.5	シスコ	*	*	385	65	40	2/8	3/9	-	5/29	213	18.7	17.0

耕種概要2007年

作 目	コード	圃場	面積 a	品 種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培 密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm	播種 日	定植 日	収穫 始	収穫 終	施肥量 kg/10a			基肥量 kg/10a		
														N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
レタス(C1)	214	西4	0.5	シスコ	54.1	505	385	65	40	9/4	9/28	11/28	-	213	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
レタス(C2)	214	西4	0.5	シスコ	*	*	385	65	40	-	10/16	-	12/21	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
レタス(R1)	218	西4	0.5	レッドウエーブ	62.2	546	385	65	40	9/4	9/28	11/1	-	213	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
レタス(R2)	218	西4	0.5	レッドウエーブ	*	*	385	65	40	-	10/19	-	12/27	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
ニラ	242	ハウス1	2.1	グリーンペルト	423.3	-	1111	60	15	-	-	4/2	-	213	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
ニンニク(1)	248	西3	0.5	ホワイト6片	33.6	336	833	60	20	-	9/27	5/23	5/23	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
ニンニク(2)	248	西3	0.5	ホワイト6片	*	*	833	60	20	-	9/27	5/23	5/23	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
シュンギク(1)	168	ハウス4	0.7	大葉春菊	32.1	-	1111	60	15	9/20	-	10/31	-	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
シュンギク(2)	173	南温室	1.0	大葉春菊	33.3	-	1111	-	15	9/21	10/19	11/22	-	-	-	-	-	-	-
ミズナ	287	ハウス4	0.7	しゃきさら	26.7	381	556	60	30	1/24・3/5	3/8・4/13	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
ミズナ	263	温室A	0.7	しゃきさら	21.6	309	556	60	30	-	10/19	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
ミズナ	109	西3	1.0	しゃきさら	7.8	-	556	60	30	-	-	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
ツルムラサキ	297	南温室	1.0	ツルムラサキ	68.4	684	高設	-	30	4/11	5/30	6/27	10/23	-	-	-	-	-	-
クウシンサイ	296	南温室	1.0	クウシンサイ	83.1	1662	高設	-	30	4/12	5/30	6/27	10/19	-	-	-	-	-	-
サトイモ(1)	122	西2	5.0	エグイモ	574.0	718	128	130	60	-	4/6・10	10/1	10/29	233	20.0	19.0	133	10.0	9.0
サトイモ(2)	122	西2	2.0	石川早生	*	*	128	130	60	-	4/6・9	10/1	10/29	233	20.0	19.0	133	10.0	9.0
サトイモ(3)	122	西2	1.0	(京・赤目)	*	*	128	130	60	-	4/6・11	10/29	10/29	233	20.0	19.0	133	10.0	9.0
ヤマノイモ	236	ハウス5	0.5	つくねいも	9.4	188	385	65	40	-	4/13	11/6	11/6	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ	94	西3	1.0	耐病ひかり	70.0	700	769	65	20	10/11	-	12/4	12/26	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
春ダイコン(1)	93	西1	0.5	おはる	347.6	2317	769	65	20	3/22	-	5/21	-	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
春ダイコン(2)	93	西1	0.5	おはる	*	*	769	65	20	4/6	-	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
春ダイコン(3)	93	西1	0.5	耐病総太り	*	*	769	65	20	4/13	-	-	6/28	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
ダイコン(1)	93	西3	0.5	耐病総太り	345.8	-	769	65	20	9/3	-	10/29	-	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
ダイコン(2)	93	西3	0.5	耐病総太り	*	*	769	65	20	9/13	-	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
ダイコン(3)	93	西3	0.5	耐病宮重	*	*	769	65	20	9/9	-	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0
ダイコン(4)	93	西3	0.5	耐病宮重	*	*	769	65	20	10/11	-	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3	18.7	17.0

耕種概要2007年

作 目	コード	圃場	面積 a	品 種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培 密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm	播種 日	定植 日	収穫 始	収穫 終	施肥量 kg/10a			
														N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	基肥量 kg/10a N P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> K <sub>2</sub> O
春ニンジン(1)	120	西1	0.5	向陽2号	326.0	2173	1538	65	10	3/1	-	5/31	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
春ニンジン(2)	120	西1	0.5	向陽2号	*	*	1538	65	10	3/13	-	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
春ニンジン(3)	120	西1	0.5	向陽2号	*	*	1538	65	10	3/28	-	-	7/27	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
ニンジン(1)	120	西3	0.5	向陽2号	221.7	1105	1538	65	10	8/7	-	10/29	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
ニンジン(2)	120	西3	0.5	向陽2号・金時	*	*	1538	65	10	8/29	-	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
ニンジン(3)	120	西3	0.5	向陽2号	*	*	1538	65	10	9/11	-	-	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
春バレイシヨ(1)	186	西3	3.0	男爵いも	644.0	2147	615	65	25	-	2/26	5/21	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
春バレイシヨ(2)	183	西3	3.0	メークイン	528.0	1760	615	65	25	-	2/16-26	5/29	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
春バレイシヨ(3)	182	西3	1.0	レッドアンデス	148.0	1480	615	65	25	-	2/16	-	6/8	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
春バレイシヨ(4)	307	西3	1.0	レッドムーン	174.5	1745	615	65	25	-	2/16	-	6/8	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
秋バレイシヨ(1)	182	西1	2.0	レッドアンデス	148.2	741	615	65	25	-	9/10	11/30	-	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
秋バレイシヨ(2)	184	西1	3.5	デジマ	216.4	618	615	65	25	-	9/10	11/27	12/3	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
アスパラガス	71	ハウス3	1.4	-	26.6	190	-	-	-	-	-	4/2	5/15	-	-	-	- - -
ハルウコン	246	ハウス5	0.3	-	6.3	210	308	65	50	-	4/12	11/30	11/30	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
シヨウガ	312	ハウス5	0.7	-	44.4	634	308	65	50	-	4/13	7/30	12/3	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
ドラゴンフルーツ	-	温室A	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	- - -
アロエベラ	271	ハウス2	1.4	-	270.9	1935	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	- - -
アロエベラ	270	温室A	0.1	-	*	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	- - -
花木	293	西6	6.0	(サツキ他)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	- - -
雑花		ハウス2	0.7	(カーネーション)	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	- - -
緑肥		西2・南3	34.0	ソルゴー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	- - -
メロン(1)	311	温室A	2.1	モナミレッド	198.9	947	167	60	100	1/10	2/23	7/27	8/6	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0
メロン(2)	311	温室A		マルセイユ	*	*	167	60	100	1/10	2/23	7/27	8/6	21.3	18.7	17.0	21.3 18.7 17.0

(注) データは2007年12月末現在

## ( 2 ) 汎用耕地部門

平成19年度の乾田直播栽培は、昨年と同じく5月中旬頃から播種を開始したが、降水量が適度にあり出芽も良好で生育は順調であった。移植栽培は苗箱へ5月中旬に播種し、苗の生育は順調に進み、岡山水田、八浜水田共に田植えも平年並みに行え、活着も比較的順調であった。天候は6月下旬まで平年並みに推移したが、梅雨入り後からは曇りや雨の日が多くなり梅雨明け頃まで続いた。しかし昨年と同じく8月に入ってから晴天が続く猛暑となり、遅れていた生育も回復した。登熟期は台風の襲来もなく8月同様に高温傾向で推移した。また、晩生の‘アケボノ’にトビイロウンカが大発生して坪枯れがみられた。単収は中生の‘ヒノヒカリ’より晩生の‘アケボノ’の方が若干高い結果となった。水稻の作柄、作況指数は全国平均が522kg/10a「99」、岡山県は487kg/10a、「97」であった。岡山水田は栽培品種を‘アケボノ’に統一し、1号

水田はガイダンス科目総合農業科学入門で1年次生全員による手植え移植とし、2号水田は田植え機を用いて成苗（葉齢5～5.5）を移植栽培した。また、2号水田の一部で津島小学校生徒による田植え、稲刈りを行った。なお、3号水田では修士・卒業論文作成のための試験が行われ、多くの研究成果が報告された。八浜水田は1号、2号、4号、5号水田で乾田直播栽培を行い、3号、6号水田は成苗（葉齢5～5.5）を用いた移植栽培とした。中生品種の‘ヒノヒカリ’と晩生品種の‘朝日’、‘アケボノ’を栽培して作業の分散を図った。また、カキ殻の多い場所では秋落ちしやすい傾向がみられたため、水田の一部分に追肥を行った。

本農場の水稻収量はアケボノ492kg/10a、ヒノヒカリ460kg/10a、朝日555kg/10a、平均480kg/10aとなり、昨年（389kg/10a）に比べて増収した。

（多田正人）

第1表 栽培面積

作目	栽培様式	品種	栽培圃場及び面積(a)	合計(a)
岡山水田				
水稻	移植	アケボノ	1号(40)	40
	移植	アケボノ	2号(64)	64
	移植	アケボノ	3号(10)	10
	試験研究用		3号(5, 研究室・未収穫)	-
八浜水田				
水稻	直播	アケボノ	1号(171)2号(158)	319
	直播	朝日	1号(40)	40
	直播	ヒノヒカリ	1号(70)4号(81)5号(134)	285
	移植	ヒノヒカリ	3号(69)6号(54)	123

第2表 栽培の概要

作目	栽培様式	品種	播種・移植期	播種量 kg/10a	施肥量(kg/10a)				収穫期
					種類	N	P <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	
岡山水田									
水稻	移植	アケボノ	5/14・6/11～12	1.3	Z140	9.2-12	8.8	7.7	10/29～10/31
八浜水田									
水稻	直播	アケボノ	5/23～5/24	6.0	Z140	9.2-13	5.2	5.2	10/19～11/22
	直播	朝日	6/22	6.0	Z140	9.2-13	5.2	5.2	10/17
	直播	ヒノヒカリ	5/1～5/9	9.0	Z140	9.2-16.0	5.2	5.2	10/29～10/31
	移植	ヒノヒカリ	5/14・6/19～21	1.3	Z140	9.2-16.0	5.2	5.2	10/15～10/16



第3表 水稻防除作業内容

	薬品名	圃場名(号田)	使用量(/10a)	月/日
八浜水田				
除草剤	トレファノサイド乳剤	1, 2, 4, 5	296cc	5/14 ~ 5/28
	シャドー水和剤	1, 2(一部分)	150g	6/7 ~ 6/13
	マーセット乳剤	3, 6	360cc	6/19 ~ 6/20
	ダイヤモンドフロアブル	1, 2, 4, 5	500cc	6/21 ~ 6/28
	クサメツツフロアブル	3, 6	500cc	6/27
	クリンチャー乳剤	1, 2, 4, 5	96cc	6/5 ~ 6/11
	クリンチャー乳剤	"	96cc	6/12 ~ 6/13
	殺虫・殺菌剤 アドマイヤー顆粒	"	33g	5/7 ~ 5/22
	ロムダンゾル	1, 3, 4, 5, 6	98cc	7/26 ~ 7/27
	モンカットフロアブル	"	98cc	7/26 ~ 7/27
殺虫・殺菌剤	アブロードフロアブル	1, 2, 3, 4, 5, 6	97cc	8/20 ~ 8/29
	ブラシンフロアブル	"	97cc	8/20 ~ 8/29
	ロムダンゾル	"	97cc	8/20 ~ 8/29
	モンカットフロアブル	"	97cc	8/20 ~ 8/29
	スタークル顆粒	1, 2	54g	10/2 ~ 10/3
岡山水田				
除草剤	クサメツツフロアブル	1, 2, 3	500cc	6/14 ~ 6/15
	マーセット乳剤	"	430cc	6/8
殺虫・殺菌剤	ロムダンゾル	"	98cc	8/6
	モンカットフロアブル	"	98cc	8/6
	アブロードフロアブル	"	97cc	8/23
	ブラシンフロアブル	"	97cc	8/23
	ロムダンゾル	"	97cc	8/23
	モンカットフロアブル	"	97cc	8/23

## (3) 装置化生産部門

### i. 果樹部

平成19年度の担当圃場面積は、岡山農場164a（露地103.7a，雨よけハウス53.8a，ガラス室6.5a）および本島農場49a（すべて露地）であった。

12月末までの岡山農場における生産実績を第1表に、本島農場における生産実績を第2表に示した。12月末時点での販売収入額は岡山農場699万3722円，本島農場106万7083円であった。

平成19年1月から12月までの樹種ごとの薬剤防除履歴と、ブドウの植物成長調節剤使用履歴を第3表から第14表に示した。

#### モモ

梅雨明けが遅れ、中生品種の成熟期である7月に曇りや雨の日が多かったため、‘あかつき’、‘紅清水’および‘清水白桃’では果実の糖度が低く、3品種とも平均糖度（Brix）が9～10度であった。いずれの品種も果実の渋みは例年より少なく、‘清水白桃’と‘川中島白桃’では300g以上の大玉が多かった。7月末の梅雨明け以降は晴天の日が多く、降水量が極端に少ない状態が続いたが、頻繁に灌水を行ったため‘ゴールデンピーチ’の玉太りは良く、300g～400gの果実が多かった。‘ゴールデンピーチ’の食味は例年より渋みが少なく良好で、平均糖度は平年並みの12度であった。進物箱入り果実を合計220箱販売し、天満屋で2個入りパックを1000パック以上販売したため、モモ全体の販売収入額が初めて200万円を超えた。前年度に引き続き、11月と12月には接ぎ木苗を販売した。

今年度もカラスによる果実への加害が著しく、1号圃では、5月末に果実袋を破られたり果実をつつき落とされるなどの大規模な被害が発生した。これを受けて、4号圃では6月初めに圃全体に防鳥糸を張り、7月末に爆音機、8月末に猛禽類の模型を設置した。これらの対応もあって、4号圃での鳥害は例年よりも少なかった。

なお、1号圃に1本残っていた1975年定植の‘清水白桃’を10月に伐採した。

#### ブドウ

8月以降晴天の日が多く、気温の高い状態が続いたため、3号圃の雨よけハウスでは果実の成熟が早まり、糖度も例年よりも高くなる品種が多かった。販売可能数量に限りがあるため、収穫が遅れて品質が低下する果実が多かった。‘藤稔’は5月の数回の強い西風で誘引直前の枝が500本以上根元から折れたが、その後の生育は持ち直した。収穫した果実は房型、着色、食味ともに良く、天満屋での販売でも好評であった。‘デラウェア’は1回目のジベレリン処理時にフルメット液剤2.5ppmを混用したため着粒率が高くなったが、摘粒作業が遅れたため果粒が小さく、果粒同士の密着によって裂果が発生する果房が多かった。‘マスカット・ベリーA’は着粒が少なく、摘粒に時間がかからなかった。収穫期間が長いと収穫後半には糖度が21～23度まで上がったが、過熟となり脱粒が多くなった。‘ネオ・マスカット’も収穫の遅れによって過熟となる果実が多かった。‘ピオーネ’はコナカイガラムシの被害が少なかったため、販売量が前年度より300kg以上増加した。着色は不良であったが、糖度は19度程度で食味が良かった。‘巨峰’はコナカイガラムシの被害が多かった。2002年12月に新規導入した品種では、‘サニールージュ’は一部で着色不良や有核果の混入が認められたが食味が良く好評であった。‘瀬戸ジャイアンツ’はジベレリン処理に失敗したため着粒率が著しく低かった。‘翠峰’は樹の育成のため今年度は着房させなかった。

ガラス室では、地中温度コントロール室を2月加温で栽培した以外は無加温で栽培した。

梅雨明け以降は好天に恵まれたため、‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’では果実の糖度が加温栽培・無加温栽培ともに19度前後であった。連日の高温の影響で、8月には‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’で果実の日なえが多く発生した。12月が天候不順であったため、‘グロー・コールマン’ではウドンコ病の発生が多かった。

‘ヒロハンプルグ’と‘グロー・コールマン’は年内に販売しきれないと判断されたので、12月にすべて収穫して冷蔵保存し、1月以降も販売した。

夏から秋にかけての高温の影響で害虫の発生が多く、10月頃までハスモンヨトウやトビイロトラガの発生が認められた。薬剤散布の方法および回数の見直しと前年度の粗皮剥ぎの徹底により、前年度大きな問題であった白綿病とコナカイガラムシによる果実被害は全体的に減少した。

なお、6月下旬の摘粒時期に作業が集中したため、他の技術部門を含めた岡山農場の全非常勤職員に12日間、毎日各1～2時間の超過勤務を依頼した。

#### カキ

前年度の着果過多の影響で‘富有’と‘松本早生富有’では花芽の着生が悪く、果実の生産量が大きく減少した。好天候の影響で各品種とも糖度が上昇し、収穫果の糖度は‘平核無’で16度前後、‘松本早生富有’で15～18度であった。販売が好調で果実が不足したため、不完全甘柿の‘西村早生’および‘倉方’も脱渋したのを販売した。脱渋前に果実を切って確認したところ、‘西村早生’では調査したすべての果実に十分な数の種子が入り渋果の混入はみられなかったが、‘倉方’では渋みを感じる果実がほとんどであった。‘西村早生’のうち9月末に収穫した果実は、高温のため果頂部が軟化し、果皮の緑色の抜けが悪く食味も悪かったため販売を見合わせたが、10月末まで樹上に残した果実は、軟化が少なく食味も良かったため販売が可能であった。‘愛宕’は生産量が例年より少なく、全量を生果で販売できたため、干し柿の生産は行わなかった。

樹勢が旺盛なため数年間チッソ成分無施用で栽培してきた‘平核無’は、収穫期近くに元葉の黄化が認められたため、今年度はチッソを施用した。

鳥害対策のため、8月に2号園のカキ園部分全体に防鳥糸を張り、収穫期には爆音機と猛禽類の模型を設置した。対策後の果実の被害はわずかであった。

適宜灌水を行ったが、夏秋季の高温・少雨の影響

で10月以降までイラガの発生が多く、‘富有’では果皮にしわが発生する果実がみられた。

#### その他の果樹（岡山農場）

キウイフルーツは着花の悪い樹がなく、結実率も高かった。フルメット処理は例年通り行ったが、摘果が不十分で時期も遅れたことと6月の少雨の影響で、果実の肥大は例年よりも劣った。収穫量は前年度より多く、12月に収穫してすべて冷蔵保存し、販売可能数をみながら随時追熟して販売した。品質の劣化がなければ4月頃まで販売する予定である。

2006年3月に定植したリンゴは今年度初結果し、‘つがる’、‘ふじ’など合計60kgあまりを収穫した。2004年以前に栽培していたものと比較して食味が良く、‘ふじ’では着色も優れた。見本樹の中では‘ゴールデン・デリシャス’が食味と生産量の点で他品種よりも優った。リンゴでは害虫の発生が多く、特にハスモンヨトウによる被害が目立った。

2号園雨よけハウスで育成中のウンシュウミカンの苗木の生育は、極早生品種を除いておおむね順調であった。一部の樹では少量の果実をならせたが、大玉になりすぎて浮皮となり、果実の外観は良かったが食味は淡泊であった。

#### カンキツ類（本島農場）

記録的な少雨に加えて圃場散水設備の故障のため十分な灌水ができなかった。このためいずれの樹種とも果実の肥大が劣り、葉が巻いたり、落葉したりする樹が認められた。

ウンシュウミカンでは例年並みの摘果を行ったが、その後の玉太りが悪く、Sサイズ・SSサイズが中心であった。4月から8月まで販売した甘夏は高単価で販売できたが、ウンシュウミカンの市価が低迷したため、12月末時点の販売収入は前年度よりも少なかった。

（近藤毅典）

第1表 平成19年度岡山農場果樹類生産量  
(12月末までの販売数量)

種 類	品 種	面積 (a)	生産量 (kg)
モモ	あかつき	4.0	991
	紅清水	7.2	853
	清水白桃	10.7	641
	ゴールデンピーチ	4.0	863
	その他品種	15.1	211
	接ぎ木苗	0.3	26本
ブドウ (雨よけハウス)	藤稔	6.7	1,463
	ピオーネ	6.2	1,217
	巨峰	3.8	622
	マスカット・ベリーA	5.2	1,025
	ヒロハンプルグ	1.4	270
	アーリー・スチューベン	1.9	245
	ネオ・マスカット	1.0	255
	デラウェア	1.9	146
	その他品種	6.7	270
ブドウ (ガラス室)	マスカット・オブ・アレキサンドリア	4.9	846
	グロー・コールマン	0.8	82
カキ	富有	5.7	203
	松本早生富有	3.1	185
	平核無	4.2	479
	西条	3.1	342
	愛宕(生果)	6.2	1,059
	愛宕(乾果)		0
	その他品種	2.0	138
キウイフルーツ		6.9	154
リンゴ		7.5	35
ウメ		4.2	143
ビワ		3.1	240
スモモ		2.2	184

第2表 平成19年度本島農場カンキツ類生産量  
(12月末までの販売数量)

種 類	生産量 (kg)
ウンシュウミカン	2,247
甘夏	4,235
その他	230

第3表 モモの薬剤防除履歴(平成19年)

月/日	薬品名	倍率等	備考
3/12	石灰硫黄合剤	7	
3/13	カスミンボルドー	500	
3/13,15	コンフューザーN	570本/41.3a	
4/6	ロブラール水和剤	1500	
4/23	ビスダイセン水和剤	500	
"	アディオン乳剤	2000	
5/7	スベックス水和剤	500	
"	ダイアジノン水和剤	1000	
5/16	ベルコート水和剤	2000	
"	ダーズバン水和剤	1000	
5/21,24	ストロビードライフフロアブル	2000	
"	スプラサイド水和剤	2000	
5/27	インダーフロアブル	5000	一部のみ
"	ノーモルト乳剤	1000	一部のみ
5/31	デランフロアブル	700	4号園のみ
"	ノーモルト乳剤	1000	4号園のみ
6/4	デランフロアブル	600	一部のみ
"	ノーモルト乳剤	1000	一部のみ
6/12	ダコニール1000	1300	
"	ハチハチフロアブル	1000	
"	バロックフロアブル	2000	
6/27	ベルコート水和剤	2000	
"	ロディー乳剤	1000	
7/12	ダイアジノン水和剤	1000	4号園のみ
7/18	コテツフロアブル	2000	4号園のみ
"	スタークル顆粒水溶剤	2000	4号園のみ
8/23	コテツフロアブル	2000	ゴールデンピーチのみ
"	ダイアジノン水和剤	1000	ゴールデンピーチのみ
12/17	マシン油乳剤95	20	

第4表 ブドウ(雨よけハウス)の薬剤防除履歴(平成19年)

月/日	薬品名	倍率	備考
4/2,3	石灰硫黄合剤	7	
"	ベンレートT水和剤	200	
4/23	アブロードフロアブル	1000	
"	サンマイト水和剤	1500	
5/7	ペンコゼブフロアブル	1000	
"	ロブラール500アクア	1000	
"	スプラサイド水和剤	1500	
5/18	フェスティバルM水和剤	1000	
"	ゲッター水和剤	1500	
"	スタークル顆粒水溶剤	1000	
5/27	ポリベリン水和剤	1000	
"	オルトラン水和剤	1500	
6/11	バロックフロアブル	2000	
"	スプラサイド水和剤	1500	
6/20	ストロビードライフフロアブル	3000	
"	スカウトフロアブル	2000	
6/25,26,7/2	ストロビードライフフロアブル	3000	
"	コテツフロアブル	2000	
7/11,12	ICボルドー66D	50	デラウェアを除く
"	スミチオン水和剤	1000	デラウェアを除く
9/6	エスマルクドライフロアブル	2000	一部のみ
"	コテツフロアブル	2000	一部のみ

第5表 ブドウ（ガラス室）の薬剤防除履歴（2月加温栽培）（平成19年）

月/日	薬品名	倍率等	備考
1/26	オマイト水和剤	1000	
3/27	ポリベリン水和剤	1000	
"	スタークル顆粒水溶剤	1000	
4/25	スカウトフロアブル	2000	
"	ストロビードライフフロアブル	3000	
5/11	インダーフロアブル	8000	
"	コテツフロアブル	2000	
6/7	アドマイヤー顆粒水和剤	10000	
"	パロックフロアブル	2000	
7/23	ジェットVP	100g	
10/2	エスマルクドライフロアブル	2000	一部のみ

第6表 ブドウ（ガラス室）の薬剤防除履歴（無加温栽培）（平成19年）

月/日	薬品名	倍率	備考
3/2	石灰硫黄合剤	7	
"	ベンレートT水和剤	200	
3/26	オマイト水和剤	1000	
"	スプラサイド水和剤	1500	
4/26	オーシャイン水和剤	2000	
"	モスピラン水溶剤	2000	
4/27	バスタ液剤	150	大温室のみ
5/11	ポリベリン水和剤	1000	
"	スタークル顆粒水溶剤	1000	
5/28	スプラサイド水和剤	1500	
"	カンタスドライフロアブル	1500	
6/7	ストロビードライフフロアブル	3000	
"	コテツフロアブル	2000	
6/8	バスタ液剤	180	
6/26	ジェットVP	850g	大温室のみ
6/28	マイトコーネフロアブル	1000	
"	アドマイヤー水和剤	2000	
"	マネーヅ水和剤	3000	
7/11	パロックフロアブル	2000	
7/26	エスマルクドライフロアブル	2000	
8/31	ジェットVP	850g	大温室のみ
10/2	エスマルクドライフロアブル	2000	一部のみ
10/15	ロディー燻煙顆粒	900g	大温室のみ
10/17	フルビカ燻煙剤	250g	大温室のみ
11/1	フルビカ燻煙剤	100g	大温室のみ

第7表 ブドウの植物成長調節剤使用履歴（平成19年）

月/日	薬 品 名	薬品名・濃度
5/8	デラウェア	ジベレリン100ppm+フルメット2.5ppm
5/25	ハニーシードレス	ジベレリン100ppm
5/28	巨峰	ジベレリン20ppm+フルメット2.5ppm
5/30	藤稔, ピオーネ, ゴルビー 安芸クイーン, サニールージュ	ジベレリン20ppm+フルメット2ppm
6/4	アーリースチューベン	ジベレリン100ppm
"	瀬戸ジャイアンツ	ジベレリン25ppm
6/5	デラウェア	ジベレリン100ppm
"	巨峰, サニールージュ	ジベレリン25ppm
"	マスカット・オブ・アレキサンドリア (大温室無加温)	フルメット5ppm
6/8	ピオーネ, ゴルビー 安芸クイーン	ジベレリン25ppm
"	ヒロハンプルグ	ジベレリン50ppm
6/11	藤稔	ジベレリン25ppm
6/12	マスカット・ベリーA	ジベレリン100ppm
6/18	瀬戸ジャイアンツ	ジベレリン25ppm

第8表 カキの薬剤防除履歴（平成19年）

月/日	薬 品 名	倍 率	備 考
3/2	石灰硫黄合剤	7	
3/23	バスタ液剤	100	2号園のみ
"	ラウンドアップハイロード	100	1号園のみ
4/25	モスピラン水溶剤	3000	
5/22	ゲッター水和剤	1000	
6/11	MRジョーカー水和剤	2000	
"	ラビライト水和剤	500	
6/27	ストロビードライフフロアブル	3000	
"	アドマイヤー顆粒水和剤	10000	
7/9	ディブテックス乳剤	1000	2号園のみ
7/11	オリオン水和剤	1000	平核無のみ
9/7	ストロビードライフフロアブル	3000	
"	コテツフロアブル	2000	
10/16	バシレックス水和剤	1000	
"	アクタラ顆粒水溶剤	2000	
12/17	マシン油乳剤95	20	

第9表 キウイフルーツの薬剤防除履歴（平成19年）

月/日	薬 品 名	倍率等
3/1, 2	石灰硫黄合剤	7
6/5, 20	フルメット液剤	5ppm
7/5	トップジンM水和剤	1000
"	パダンSG水溶剤	1500

第10表 リンゴの薬剤防除履歴（平成19年）

月/日	薬 品 名	倍率等
3/1	石灰硫黄合剤	7
3/20	コンフューザーN	150本/7.5a
3/23	バスタ液剤	100
4/20	スミチオン乳剤	1000
"	カーラフロアブル	2500
"	バルノックス水和剤	700
5/11	オリオン水和剤	1000
"	トップジンM水和剤	1000
6/7	アドマイヤー顆粒水和剤	5000
"	バロックフロアブル	2000
"	ストロビードライフロアブル	2000
6/28	マイトコーネフロアブル	1000
"	アドマイヤー水和剤	2000
"	マネーヅ水和剤	3000
7/26	テルスター水和剤	1000
9/7	コテツフロアブル	2000
"	バシレックス水和剤	1000
10/2	エスマルクドライフロアブル	2000

第11表 ウメの薬剤防除履歴（平成19年）

月/日	薬 品 名	倍 率
1/15	石灰硫黄合剤	7
3/23	ハービー液剤	150
4/12	ベルコート水和剤	2000
"	スタークル顆粒水溶剤	2000
5/15	ストロビードライフロアブル	2000
"	スタークル顆粒水溶剤	2000
12/17	マシン油乳剤95	20

第12表 スモモの薬剤防除履歴（平成19年）

月/日	薬 品 名	倍 率	備 考
3/1	石灰硫黄合剤	7	
4/3	オリオン水和剤	1000	一部のみ
4/20	スカウトフロアブル	2000	
"	ロブラール水和剤	1500	
5/11	オリオン水和剤	1000	
"	トップジンM水和剤	1000	
9/4	エスマルクドライフロアブル	2000	



第13表 その他の果樹の薬剤防除履歴（岡山農場）（平成19年）

月/日	果 樹 名	薬 品 名	倍 率
3/1	アンズ，ブルー	石灰硫黄合剤	7
4/20	アンズ	スカウトフロアブル	2000
"	"	ロブラール水和剤	1500
4/25	ビワ，セイヨウナシ	モスピラン水溶剤	3000
4/27	モモ苗木，カンキツ	バスタ液剤	150
"	モモ苗木，一部カンキツ	ロロックス水和剤	300
"	"	トレファノサイド乳剤	300
5/11	アンズ，モモ苗木，カンキツ	オリオン水和剤	1000
"	"	トップジンM水和剤	1000
6/7	ブルー，モモ苗木，カンキツ	アドマイヤー顆粒水和剤	1000
"	"	バロックフロアブル	2000
"	"	ストロビードライフフロアブル	2000
7/11	クルミ	オリオン水和剤	1000
7/26	モモ苗木，カンキツ	テルスター水和剤	1000
9/7	カンキツ	コテツフロアブル	2000
"	"	エスマルクドライブフロアブル	2000

第14表 カンキツ類の薬剤防除履歴（本島農場）（平成19年）

月/日	薬 品 名	倍 率
4/5, 6, 9	ミカノール	70
4/27, 5/8, 9, 11, 14	サンフーロン液剤	100
5/21, 22, 23, 28	ロブラール水和剤	1500
"	アルバリン顆粒水溶剤	1000
7/20, 23, 24, 25	サンフーロン液剤	100
8/1, 7, 8	ペンコゼブ水和剤	800
"	サンマイト水和剤	3000
"	スプラサイド水和剤	1500
10/22, 23	サンフーロン液剤	100

## ii. 野菜・花き部

平成19年度における野菜・花卉部の耕種と生産概要を第1表に示した。

年間を通じての実習効果や栽培管理を考慮して、本年度も基本的には夏作の果菜類，秋冬作の葉菜類，施設栽培を組み合わせた作付け体系を継承した。

### (1) 果菜類

施設栽培では汎用温室C棟(440m<sup>2</sup>)で「らくちん方式・高設養液栽培」によるイチゴ栽培を行なった。イチゴは2品種「女峰」と「さちのか」を栽培した。二酸化炭素発生装置を設置することで生育良好であった。病害虫はダニとうどんこ病が発生したが初期防除をすれば防止できると思われる。実習効果及び増収に大きく貢献した。

トマト栽培は汎用温室B棟(440m<sup>2</sup>)で行った。春作は大玉の「桃太郎ファイト」と「レディーファースト」，中玉の「シンデイスweet」の3品種で行った。秋作は大玉の「桃太郎ファイト」と「優美」，中玉の「シンデイスweet」と「ワンダーボール50」の4品種で行った。病害虫はラノーテープの効果と早期予防で防除が出来た。また裂果対策のひとつの方法として収穫の時機を考慮した。その結果，増収効果が認められ昨年の1.8倍の収量が得られた。秋作から栽植密度による収量調査を行っている。春作も継続して調査を行う予定である。

今後の課題としては，品種選定と裂果対策，管理の省力化を考慮した上で他作物との労力配分を検討したい。

ナスとピーマンは，4月17日に学生実習で定植を行ない11月まで収穫を行なった。ナスの誘引方法は前年度の垣根作りから3本仕立てで行なった。また3品種(築陽・大丸・水ナス)を栽培したこと，苗は接木苗を使用したこと，隣地で緑肥用ソルゴーの栽培を行ったこと等で病害虫の防止効果が得られ，ほとんど薬剤散布をすることなく生産ができた。

ピーマンは4品種(京鈴・ワンダーベル・甘とう美人・シシトウ)の栽培を行った。全体に初期生育の不良と，「ワンダーベル」は夏期高温時の果実の腐敗(尻腐れ果)が多発した。後半になって温度も安定してからは生育も良くなった。「京鈴」と「甘

とう美人」は生育，収量ともに良好であった。整枝の方法と品種選定を考慮したい。

キュウリは接木苗を使用したことで昨年度と比べ増収した。

スイカは4本仕立ての整枝を行ない，栽培管理は学生実習主体で定植から敷き藁・整枝・収穫を行なった。土作りで堆肥投入を行ったが，定植の直前になったため土壌の反転と攪拌が十分にできず，苗の半分が枯死した。後播きを行い補充を行ったが収穫開始が遅れた。

### (2) 葉菜類

ハクサイは早・中・晩生と3回に分けてセル苗による移植栽培を行なった。猛暑のため作付けが遅れたことと，ヨトウムシの大量発生による虫害が大きくなり早生の大半を廃棄した。中・晩生は防除の回数を多くすることで虫害を防ぐことができた。晩生は2月の月上旬に全て収穫をおこない，保冷库に収納して3月まで販売を行った。

チンゲンサイ・コマツナ・コカブは電照キクの後地を利用してハウス栽培を行なった。無加温で栽培ができ，病害虫の発生もなく好結果が得られた。来年度も継承したい。

タマネギは苗床をバスアミドで土壌消毒を行ない条播を行なった。雑草の防除効果は大きく育苗期の省力効果が得られた。また移植後は土壌処理剤で雑草を抑えた。葉菜では主力作目であり5品種を選定して前年度作付け面積の2倍に拡張した。極早生と赤タマネギ2畦はマルチ栽培を行なった。学生実習でも収穫と移植を行なった。収穫後の保存でカビと腐敗による廃棄が多量にでた。収穫の時機と収納方法を考慮したい。

### (3) 花き

露地キクは主に冬至芽の移植栽培を行なっているが，移植時期が遅れると短茎で切り花として収穫が不能となることから3月下旬から4月上旬には冬至芽の移植を行ないたい。

電照キクは夏期に土壌消毒を行なうことで雑草を押さえることが出来た。全体に短茎になっていることから挿し芽の時機を早めると共に親株の管理，移植後の管理に注意を払いたい。アブラムシとホコリ

ダニの早期発見と駆除が必要と思われる。試験的に  
保冷保存した苗の挿し芽活用を試みたい。

れたと思われる。作物の作付けは緑肥栽培を組み入  
れた輪作体系を図り土地の有効利用に努めた。また  
土作りを図るため堆肥作りも考慮したい。

(山奥 隆)

年間の学生実習に添った作付け計画を設定し、作  
物栽培の作付け体系を充実することで安定生産が計

第1表 平成19年度における野菜・花きの耕種・生産概要

作 目	品 種	圃場(a)	面積(a)	収量(kg)	売払金額(円)
トマト	桃太郎ファイト他	汎用温室B	4.4	4412.55	2064484
ナス	築陽・丸・水	南1号	1.8	1798.94	434429
イチゴ	女峰	汎用温室C	2.2	501.94	563294
イチゴ	さちのか	汎用温室C	2.2	367.74	417647
ピーマン	京鈴・甘とう美人	南1号	0.9	411.1	189660
キュウリ	夏すずみ	南1号	0.5	515.4	104293
インゲンマメ	ツルなしモロッコ	南2号	0.6	136.87	53469
スイカ	夏武輝	南1号	5.4	942.2	90693
キンウリ	金太郎	南1号	3.6	295.35	58966
ソラマメ	打越一寸	南2号	1.8	177.7	82441
ハクサイ	黄こころ	南2号	5.4	1592.7	141991
ハクサイ (間引き)	黄こころ	南2号	0.6	120.05	23237
タマネギ(白)	ソニック・他	南1号	8.4	2797	303762
タマネギ(赤)	猩々赤	南1号	2.4	837.8	105772
タマネギ苗	ターボ・他	南2号	1.8	3390本	16950
チンゲンサイ	青武	南2号	1.2	86.7	26201
チンゲンサイ	青武	ハウス	1.6	109.1	37000
コマツナ	浜美2号	ハウス	1.6	349.3	111968
コカブ	ひかり	ハウス	0.8	100.9	28738
露地キク	美林・他	南2号	3.0	4788本	154570
電照キク	黄金・心・他	ハウス	1.4	1275本	81700
電照キク	ローズ舞風車	ハウス	0.5	364本	34700
電照キク	セイスナップ	ハウス	0.5	288本	28800

第2表 平成19年ナス防除履歴

月 日	薬品名	倍 率	備 考
4月2日	アドマイヤー粒剤		1鉢1g
4月5日	粘着くん	50	
9月10日	コテツ	2000	
	オーソサイド	1000	
10月5日	トレボン	1000	
	ダコニール	1000	

第3表 平成19年トマト防除履歴

月 日	薬品名	倍 率	備 考
春作			
1月	ラノーテープ		200m/4a
1月	アドマイヤー粒剤		1鉢1g
3月～6月	トマトトーン	50・100	
8月～11月	トマトトーン	100・50	
4月25日	サンヨール	500	
5月8日	フルピカ	2000	
秋作			
8月7日	ダコニール	1000	
	アドマイヤー粒剤		1鉢1g
9月21日	コテツ	2000	
11月26日	ダントツ	2000	
	ベルコート	1000	

第4表 平成19年タマネギ防除履歴

月 日	薬品名	倍 率	備 考
8月23日	バスアミド		5kg土壌消毒
10月18日	ダコニール	1000	
12月6日	ナブ		150ml/10a
	バサグラン		60ml/10a
12月19日	マイトコーネ	1000	
	ダコニール	1000	
1月18日	ランマン	1000	
1月30日	クロロIPC		200ml/10a
3月9日	ダコニール	1000	

第5表 平成19年ハクサイ防除履歴

月 日	薬品名	倍 率	備 考
9月10日	ランネート	1000	
	ストロビー	1000	
9月12日	オルトラン粒剤		早生 1 株 1 g
	ランネート	1000	
9月19日	トレボン	1000	
	ダコニール	1000	
9月25日	オルトラン粒剤		中・晩生 1 株 1 g
	ラーピン	1000	
10月 4 日	アファーム	2000	
	ストロビー	3000	
10月18日	ダコニール	1000	

第6表 平成19年イチゴ防除履歴

月 日	薬品名	倍 率	備 考
9月10日	コテツ	2000	
9月20日	コテツ	2000	
	ジマンダイセン	1000	
10月 5 日	オンコル粒剤		1 株 1 g
10月13日	粘着くん	50	
10月19日	サンヨール	500	
10月26日	マイトコーネ	1000	
11月 2 日	アカリタッチ	1000	
11月 6 日	アカリタッチ	1000	
11月22日	トリフミン	1000	
12月 4 日	ボトキラー	1000	
12月20日	ボトキラー	1000	
12月27日	アミスター	2000	
	アーデント	1000	
1月12日	フルピカ	2000	
1月24日	ボトキラー	1000	
	粘着くん	50	
1月31日	サンクリスタル	1000	
2月 9 日	粘着くん	50	
3月	アカリタッチ	1000	
	アミスター	2000	
4月20日	粘着くん	50	
4月24日	マイトコーネ	1000	
5月 8 日	オサダン	1000	
	フルピカ	2000	

第7表 平成19年度における野菜・花卉の耕種・生産概要

作 目	品 種	圃場(a)	面積(a)	収量(kg)	売払金額(円)
トマト	桃太郎ファイト他	汎用温室B	4.4	4412.55	2064484
ナス	築陽・丸・水	南1号	1.8	1798.94	434429
イチゴ	女峰	汎用温室C	2.2	501.94	563294
イチゴ	さちのか	汎用温室C	2.2	367.74	417647
ピーマン	京鈴・甘とう美人	南1号	0.9	411.1	189660
キュウリ	夏すずみ	南1号	0.5	515.4	104293
インゲンマメ	ツルなしモロッコ	南2号	0.6	136.87	53469
スイカ	夏武輝	南1号	5.4	942.2	90693
キンウリ	金太郎	南1号	3.6	295.35	58966
ソラマメ	打越一寸	南2号	1.8	177.7	82441
ハクサイ	黄こころ	南2号	5.4	1592.7	141991
ハクサイ (間引き)	黄こころ	南2号	0.6	120.05	23237
タマネギ(白)	ソニック・他	南1号	8.4	2797	303762
タマネギ(赤)	猩々赤	南1号	2.4	837.8	105772
タマネギ苗	ターボ・他	南2号	1.8	3390本	16950
チンゲンサイ	青武	南2号	1.2	86.7	26201
チンゲンサイ	青武	ハウス	1.6	109.1	37000
コマツナ	浜美2号	ハウス	1.6	349.3	111968
コカブ	ひかり	ハウス	0.8	100.9	28738
露地キク	美林・他	南2号	3.0	4788本	154570
電照キク	黄金・心・他	ハウス	1.4	1275本	81700
電照キク	ローズ舞風車	ハウス	0.5	364本	34700
電照キク	セイスナップ	ハウス	0.5	288本	28800

第8表 平成19年ナス防除履歴

月 日	薬品名	倍 率	備 考
4月2日	アドマイヤー粒剤		1鉢1g
4月5日	粘着くん	50	
9月10日	コテツ	2000	
	オーソサイド	1000	
10月5日	トレボン	1000	
	ダコニール	1000	

第9表 平成19年トマト防除履歴

月 日	薬品名	倍 率	備 考
春作			
1 月	ラノーテープ		200m/4a
1 月	アドマイヤー粒剤		1 鉢 1 g
3 月～6 月	トマトトーン	50・100	
8 月～11月	トマトトーン	100・50	
4 月25日	サンヨール	500	
5 月8 日	フルピカ	2000	
秋作			
8 月7 日	ダコニール	1000	
	アドマイヤー粒剤		1 鉢 1 g
9 月21日	コテツ	2000	
11月26日	ダントツ	2000	
	ベルコート	1000	

第10表 平成19年タマネギ防除履歴

月 日	薬品名	倍 率	備 考
8 月23日	バスアミド		5 kg土壌消毒
10月18日	ダコニール	1000	
12月6 日	ナブ		150ml/10a
	バサグラン		60ml/10a
12月19日	マイトコーネ	1000	
	ダコニール	1000	
1 月18日	ランマン	1000	
1 月30日	クロロIPC		200ml/10a
3 月9 日	ダコニール	1000	

第11表 平成19年ハクサイ防除履歴

月 日	薬品名	倍 率	備 考
9 月10日	ランネート	1000	
	ストロビー	1000	
9 月12日	オルトラン粒剤		早生 1 株 1 g
	ランネート	1000	
9 月19日	トレボン	1000	
	ダコニール	1000	
9 月25日	オルトラン粒剤		中・晩生 1 株 1 g
	ラーピン	1000	
10月4 日	アフアーム	2000	
	ストロビー	3000	
10月18日	ダコニール	1000	

第12表 平成19年イチゴ防除履歴

月 日	薬品名	倍 率	備 考
9月10日	コテツ	2000	
9月20日	コテツ	2000	
	ジマンダイセン	1000	
10月 5 日	オンコル粒剤		1 株 1 g
10月13日	粘着くん	50	
10月19日	サンヨール	500	
10月26日	マイトコーネ	1000	
11月 2 日	アカリタッチ	1000	
11月 6 日	アカリタッチ	1000	
11月22日	トリフミン	1000	
12月 4 日	ボトキラー	1000	
12月20日	ボトキラー	1000	
12月27日	アミスター	2000	
	アーデント	1000	
1月12日	フルピカ	2000	
1月24日	ボトキラー	1000	
	粘着くん	50	
1月31日	サンクリスタル	1000	
2月 9 日	粘着くん	50	
3月	アカリタッチ	1000	
	アミスター	2000	
4月20日	粘着くん	50	
4月24日	マイトコーネ	1000	
5月 8 日	オサダン	1000	
	フルピカ	2000	



## ( 4 ) 山地畜産部門

### 津高牧場

平成19年の飼育牛移動状況を第1表に示した。子牛の生産頭数は雌が16頭で雄が13頭の計29頭であった。本年の繁殖牛における事故は死産が3件と異常産が1件あった。

本年の販売総数は36頭で、そのうち子牛が20頭、肥育牛が2頭であった。

繁殖成績を第2表に示した。人工授精で36頭を、受精卵移植で1頭をそれぞれ受胎させることができた。人工授精は受胎頭数と受胎率ともにここ数年で最も低かった。その中で8月に分娩した牛の受胎成績が特に悪く、夏から秋にかけての繁殖管理の仕方が今後の課題となった。受精卵は3頭に移植したが1頭だけの受胎であった。

子牛の販売成績を第3表に示した。出荷頭数は去勢11頭で雌が9頭の合計20頭であった。前年と比較して出荷日齢は、去勢で13日、雌で7日長くなった。

同様に出荷体重は去勢で12kg、雌で8kgほど増えた。日齢体重は去勢と雌ともにあまり変動がなかった。価格は前年より去勢と雌ともに安値であった。子牛の価格はここ数年全体的に高値で推移していたが、本年は高値のものと安値のものの価格差が広がりにつつあるように思われた。今後は高い育種価の雌牛が生んだ雌子牛は保留し、市場の動向も見ながら、繁殖牛群のレベルアップをはかる必要があるであろう。

本年も、コクシジウム症による下痢の発生はなく、子牛のウイルス性による下痢も、1昨年からは始めた親牛への牛下痢5種混合不活化ワクチンの接種によりなくなった。これからも予防プログラムで下痢の発生を抑え、下痢が発生した場合には早期発件と早期治療に努めたい。

枝肉販売成績を第4表に示した。本年からは繁殖雌の廃用牛のみ肥育して出荷した。

第1表 平成19年の和牛における飼育移動状況

		雌				雄			合 計
		子牛	育成牛	繁殖牛	肥育牛	子牛	育成牛	肥育牛	
19.04.01現在		13	1	44	2	10	0	0	70
期 間 移 動	増 生産	12	-	-	-	11	-	-	23
	振替	-	3	1	1	-	-	-	5
	振替	3	1	1	-	-	-	-	5
	減 へい死	1	-	-	-	-	-	-	1
	売却	7	-	-	2	5	-	-	14
18.10.01現在		14	3	44	1	16	0	0	78
期 間 移 動	増 生産	4	-	-	-	2	-	-	6
	振替	-	-	-	2	-	-	-	2
	振替	-	-	2	-	-	-	-	2
	減 へい死	-	-	-	-	-	-	-	-
	売却	2	-	-	-	6	-	0	8
19.12.31現在		16	3	42	3	12	0	0	76

第2表 平成19年の繁殖牛における人工授精・受精卵移植成績(19.1.1～19.12.31)

	実施 頭数	受胎 頭数	受胎率 (%)	授精回数							
				1		2		3		4回以上	
				受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎
人工授精	48	36	75.0	24	5	9	3	3	2	0	2
受精卵移植	3	1	33.3	1	2	-	-	-	-	-	-

第3表 平成19年の子牛における販売成績

販 売 年 月 日	耳 標 番 号	生年月日	性 別	生 後 日 齢 ( 日 )	体 重 ( kg )	日 齢 体 重 ( kg/日 )	落 札 価 格 ( 千円 )	kg当り 単 価 ( 円/kg )	母 牛 番 号	父 牛 名 号
18.04.20	R931	18.07.05	雌	299	260	0.869	379	1,457	Y226	第6栄
	R899	18.07.07	去	289	270	0.934	492	1,822	Y234	第6栄
	R933	18.07.20	雌	287	273	0.951	429	1,571	Y203	安福勝
	R934	18.07.23	雌	274	252	0.919	379	1,503	Y225	安福勝
	R935	18.07.25	去	271	335	1.236	551	1,644	Y194	第5北盛
19.05.18	R936	18.08.12	去	279	275	0.985	439	1,596	Y215	沢茂勝
	R937	18.08.16	雌	275	228	0.829	364	1,596	Y191	谷福長
	R940	18.08.24	去	267	268	1.000	410	1,529	Y229	第5北盛
	R942	18.09.06	雌	254	224	0.881	335	1,495	Y227	北仁
18.07.06	R945	18.11.07	雌	241	245	1.016	371	1,514	Y220	第5北盛
19.08.24	R943	18.11.04	雌	293	258	0.880	407	1,577	Y223	第5北盛
	R944	18.11.04	去	293	261	0.890	414	1,586	Y223	第5北盛
19.10.19	R946	19.01.28	去	264	305	1.155	417	1,367	Y230	勝福栄
	R949	19.02.22	去	239	305	1.276	449	1,472	Y228	亀勝
19.11.16	R946	19.02.20	雌	269	256	0.951	392	1,531	Y231	亀勝
19.12.14	R950	19.03.17	去	272	267	0.981	527	1,973	Y211	第5北盛
	R951	19.03.21	雌	268	259	0.996	389	1,501	Y221	北湖2
	R952	19.03.26	去	263	257	0.977	532	2,070	Y238	亀勝
	R953	19.03.30	去	259	274	1.057	568	2,072	Y217	第5北盛
	R955	19.04.12	去	246	267	1.085	526	1,970	Y236	勝福栄
平均		全頭	20	270	267	0.992	438	1,642		
		去勢	11	267	280	1.052	484	1,736		
		雌	9	273	250	0.918	383	1,527		

第4表 平成の雌牛における枝肉販売成績

と 殺 年 月 日	耳 標 番 号	性 別	水 引 枝 肉 重 量 ( kg )	枝 肉 規 格	枝 肉 単 価 ( 円/kg )	売 金 ( 千円 )	上 額
19.08.29	Y192	雌	306.0	C - 1	480	146,880	
	Y232	雌	376.6	B - 2	900	338,940	

平成19年度における飼料作物の生産状況を第1表に示した。採草地における飼料作物の青草換算による収量は262,610 kgであり、10a当たり平均収量は5,295kgであった。採草地と放牧草地との総収量は434,810kgとなった。利用形態別による収量割合は青刈りで28.9%、乾草で6.9%、サイレージで24.6%、放牧で39.6%となった。

乾草調製用の材料草としてE号草地からイタリアンライグラス、スーダングラス、K3号草地からスーダングラス、K2号草地からエンバクを収穫した。本年の乾草収量は平成18年度に比べ生草換算で7,075kgの減収となった。今年度A、K1、K3号のイタリアンライグラスは当初、乾草用に刈り取ったが、天候の都合により急きょサイレージ調製をおこなった。夏作のスーダングラスは、昨年に比べ生草換算で若干ながらも収量が向上した。また、K2号草地では昨年と同様にエンバクを作付けしたが、作付け時に播種できない所もあり、発芽も悪く収量がおもわしくなかった。

サイレージ調製用の材料として、A、K1、K3号草地からイタリアンライグラス、D2、K1号草地からトウモロコシを収穫した。本年度の生草換算によるサイレージ調製収量は前年に比べ106,860kgと少なかった。この原因はK2号のトウモロコシの生育があまり良くなく、すべてを青刈りで給与したことと、イノシシによる食害があったことによるものである。

本年もトウモロコシの作付け草地に雑草のイチビが発生し、薬剤処理のできる時期に雨がふったために散布ができず、人の手で抜いたため大変な労力を費やした。的確な薬剤散布技術を今後の飼料生産システムに組み入れて、少しでも多くの収穫が得られるように改善したい。

放牧草地ではオナモミ、ワルナスビ、イグサ、セイタカアワダチソウなどの雑草がみられ、今年も学生実習等で除草作業を行った。本年度も特にワルナスビの繁殖が著しく一部除草剤散布を行った。今後も引き続きワルナスビの除草作業を行う予定である。

第1表 平成19年の飼料作物における生産量

草地	面積 (a)	作物	利用形態別収量(kg)				放牧 延頭数	生草換算 収量(kg)	草地当り収量(kg)	
			青刈	乾草	サイレージ	放牧			生草合計 収量	10a当り 平均収量
A	100	トウモロコシ+ソルゴー	6,660		17,660			41,980	67,500	6,750
		ソルゴー	25,520					25,520		
D2	130	イタリアンライグラス	8,550	2,780				22,450	67,390	5,184
		トウモロコシ	8,500		18,220			44,940		
E	76	イタリアンライグラス	6,270	1,790				15,220	37,930	4,991
		スーダングラス	14,010	1,740				22,710		
K1	90	イタリアンライグラス	18,550					18,550	63,750	7,083
		ソルゴー	8,320		18,440			45,200		
K2	60	エンバク	6,700					6,700	33,790	5,632
		トウモロコシ	14,760					14,760		
		エンバク+イタリアンライグラス	12,330					12,330		
K3	40	イタリアンライグラス	3,590	1,380				10,490	30,660	7,665
		スーダングラス	11,470	1,740				20,170		
計	496		145,230	9,430	54,320			301,020	301,020	6,069
B	65	混播牧草				19,760	494	19,760	19,760	3,040
C	120	混播牧草				33,600	840	33,600	33,600	2,800
D1	20	混播牧草				3,400	85	3,400	3,400	1,700
F	104	混播牧草				35,640	891	35,640	35,640	3,427
G	112	混播牧草				26,800	670	26,800	26,800	2,393
H	47	混播牧草				7,640	191	7,640	7,640	1,626
I	185	混播牧草				50,960	1,274	50,960	50,960	2,755
計	653					177,800	4,445	177,800	177,800	2,723
合計	1149		145,230	9,430	54,320	177,800	4,445	478,820	478,820	4,167

利用形態別における生草換算収量(kg)

青刈	乾草	サイレージ	放牧	合計
145,230	47,150	108,640	177,800	478,820

\* サイレージの生草換算は(トウモロコシ+ソルゴー)×2

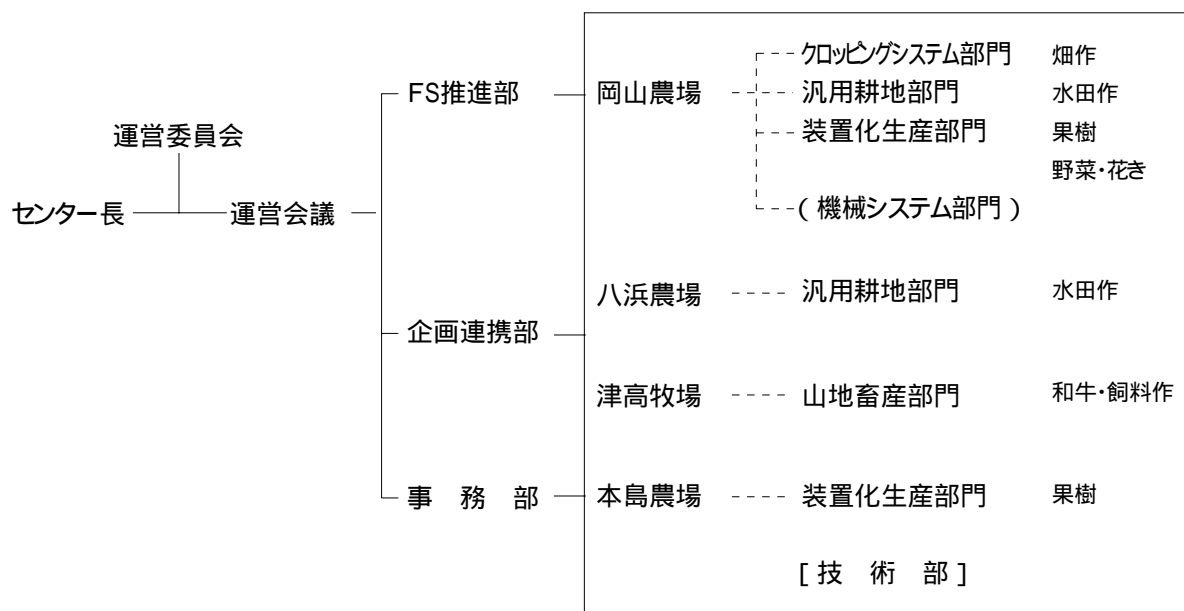
トウモロコシ×2, ソルゴー×2

\* 乾草の生草換算は×5

## 2. 事 務 部

### ( 1 ) 組 織

#### 1) 機 構



#### 2) 教職員数

区 分	教育職員(一)	一般職員(一)	計	非常勤職員	合計	備考
	技術・事務職員					
センター長	1		1		1	教授
主 事	1		1		1	教授
教 授	1		1		1	
准 教 授	1		1		1	
助 教	1		1		1	
班 長		1	1		1	
主 任		3	3		3	
技術専門職員		1	1		1	
技 術 職 員		3	3		3	
事務室長		1	1		1	
専 門 職 員		1	1		1	
主 任		1	1		1	
計	5	11	16		16	
事務補佐員				2	2	
技能補佐員				4	4	
技術補佐員				5	5	
臨時用務員				1	1	
計				12	12	

### 3) 技術部部門別職員数

部 門	技術職員	非常勤職員	平成19年 4 月 1 日現在	
			合 計	備 考
加ッピ ング システム	1	1	2	
汎用耕地	1	1	2	
装置化生産				
果樹	1	2	3	
野菜・花き	0	1	1	
山地畜産	2	1	3	
その他	3	3	6	
合 計	8	9	17	

## ( 2 ) 予算及び収入

### 1) 予 算

事 項	金 額 ( 円 )
当 初 予 算	48,999,000
( うち , 収入予算 )	( 37,802,000 )

### 2) 収 入

平成19年度					( 円 )
区 分	加ッピ ング システム	汎用耕地	装置化生産	山地畜産	合 計
果 菜 類	772,421	-	4,059,676	-	4,832,097
葉 菜 類	1,357,014	-	856,889	-	2,213,903
根 菜 類	923,156	-	28,738	-	951,894
花 卉 類	125,708	-	306,070	-	431,778
甘 し ょ 類	848,307	-	-	-	848,307
果 樹	-	-	9,001,133	-	9,001,133
米	-	10,022,000	-	-	10,022,000
牛	-	-	-	13,325,935	13,325,935
合 計	4,026,606	10,022,000	14,252,506	13,325,935	41,627,047

## ( 3 ) 土地 , 建物面積

### 1) 土 地

農場等名	面 積 ( m <sup>2</sup> )	所 在 地
岡山農場	91,992	岡山市津島桑の木町 1 - 62
八浜農場	89,568	玉野市八浜大崎1771
本島農場	22,161	香川県丸亀市本島町泊
津高牧場	312,484	岡山市日応寺
合 計	516,205	

## ( 4 ) 備品類及び営繕工事

### 1) 備品類 ( 1 件50万円以上 )

平成19年度

備品類名	数量 ( 式 )	金 額 ( 円 )
岡山農場プレハブ低温室ユニット	1	1,289,400
岡山農場常温煙霧機	1	619,500
岡山農場運搬作業車	1	546,000
岡山農場メロン栽培用制御資材	1	581,222
津高牧場繁殖・健康管理システム	1	2,163,000
クーンジャイロテッダー	1	934,500
クーンジャイロレーキ	1	714,000

### 1) 営繕工事 ( 1 件50万円以上 )

津高牧場和牛運動場屋根取設工事	1	10,290,000
津高牧場管理棟及び学生宿泊棟内部改修工事	1	1,057,875
岡山農場ビニールハウス張替及び自動換気装置設置	1	840,000

## ( 5 ) 会議開催状況

### 1) 運営委員会

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
19. 6.27	1 . フィールド科学センターの運営体制について 2 . フィールド科学センターの取組について	1 . 平成 19 年度「公開講座」の実施状況について 2 . 部門別年度別収入状況について 3 . 岡山大学教育学部附属特別支援学校生徒の職場体験学習について
19.12.19	1 . センター組織の改編及び諸規定の見直しについて	1 . 生産物の販売状況について 2 . 平成 18 年度決算について 3 . 平成 20 年度センター開講の公開講座について 4 . 和牛運動場屋根取設工事について

## 2) 運営会議

開催月日	協議事項	報告事項
19. 4. 4	1. 平成19年度ワーキンググループ一覧について 2. 平成19年度全国大学附属農場協議会春季全国協議会について 3. 養護学校職場体験学習について 4. 平成19年度山陽圏フィールド科学センター運営会議開催日程について	1. 平成19年度センター実習について 2. 平成19年度公開講座について 3. センターのホームページの更新について 4. 平成18年度備品類整備状況について 5. フィールド科学センター利用申込状況について 6. 技術部会議等について
19. 5. 9	1. 平成19年度中国・四国大学附属農場協議会について 2. 夏季一斉休業制度への対応について	1. 平成19年度センター実習について 2. 岡大教育学部附属特別支援学校職場体験学習について 3. 公開講座について 4. 平成18年度の販売実績について 5. フィールド科学センター作目コードWG報告について 6. フィールド科学センター生産物販売について 7. フィールド科学センター・半田山教育研究林利用申込状況について 8. 技術部会議等について
19. 6. 6	1. フィールド演習について 2. センター組織の改編について	1. 特別支援学校職場体験学習について 2. 平成19年度全国大学附属農場協議会春季全国協議会について 3. フィールド科学センター生産物販売について 4. フィールド科学センター利用申込状況について 5. 技術部会議等について 6. 学長裁量経費の要求について 7. キャンパス利用検討委員会について 8. フィールド科学センターの土地使用（栽培演習）について



開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
19. 7. 4	1 . 平成19年度全国大学附属農場協議会秋季協議会について 2 . 花壇苗生産と学内環境整備の障害者施設・附属特別支援学校との共同実施について 3 . フィールド科学センターの運営体制について	1 . 夏季集中実習について 2 . 岡大附属特別支援学校現場実習について 3 . 大学Jr. サイエンス事業（大学等開放推進事業）の公募について 4 . センター報告第29号の原稿について 5 . フィールド科学センター生産物販売について 6 . フィールド科学センター利用申込状況について 7 . 販売所休業について 8 . 公開シンポジウムについて 9 . 技術部会議等について
19. 8.29	1 . 農学部公開シンポジウムについて 2 . 大学Jr. サイエンス事業（大学等開放推進事業）の採択について 3 . 花壇苗生産と学内環境整備の障害者施設・附属特別支援学校との共同実施について 4 . フィールド科学センターの運営体制について 5 . センター報告第29号について 6 . 琉球大学農学部センター教職員の視察・研修について	1 . 平成19年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 2 . 夏季集中実習について 3 . フィールド科学センター利用申込及び半田山自然教育研究林利用届出状況について 4 . 技術部会議等について 5 . 生産物の販売について
19.10. 3	1 . 農学部公開シンポジウムについて 2 . 大学Jr. サイエンス事業（大学等開放推進事業）の採択について 3 . 花壇苗生産と学内環境整備の障害者施設・附属特別支援学校との共同実施について 4 . 特別支援学校後期職場体験実習について 5 . 秋の一日職場体験学習について 6 . フィールド科学センターの運営体制について 7 . センター報告第29号について 8 . 学長裁量経費の採択結果等について 9 . 平成19年度予算について	1 . 後期集中実習について 2 . 津高牧場畜魂祭について 3 . フィールド科学センター利用申込及び半田山自然教育研究林利用届出状況について 4 . 技術部会議等について 5 . 生産物の販売について 6 . 警備業務における自動ロックの時間帯の変更について

開催月日	協議事項	報告事項
19.11. 7	1. 1農場1アピールについて 2. 大学Jr.サイエンス事業の修了証書の発行について 3. 平成19年度予算について	1. 農学部公開シンポジウムについて 2. 平成19年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会について 3. 琉球大学農学部センター教職員の視察・研修について 4. フィールド科学センター利用申込状況について 5. 津高牧場水質検査について 6. 収穫祭について 7. センター報告第29号について 8. 花壇苗生産と学内環境整備の障害者施設・附属特別支援学校との共同実施について 9. 特別支援学校後期職場体験学習について 10. 秋の一日仕事体験学習について 11. フィールド科学センターの運営体制について 12. 技術部会議等について 13. 生産物の販売について
19.12. 5	1. 技術部組織再編に伴う運営会議・技術部・運営委員会要項の改定について 2. 平成20年度作付け計画について 3. 予算執行見込みについて 4. 産業廃棄物（使用済みプラスチックフィルム等）及びくず鉄（パイプ資材、農機具等）について 5. センター紹介パンフレットについて 6. 平成20年度「大学コンソーシアム岡山」単位互換授業科目に関する開講科目の提供について 7. 平成20年度センター開講の公開講座について 8. 特別支援学校によるバザー学習について	1. センター報告について 2. 「1農場1アピール」について 3. 大学Jr.サイエンス事業アンケート結果について 4. 和牛運動場屋根取設工事について 5. 会計検査院による会計実地検査について 6. 半田山自然教育研究林使用届出書について 7. フィールド科学センター利用申込状況について 8. 技術部会議等について 9. 生産物の販売について

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
20. 1. 7	1. 平成20年度作付計画（案）について 2. センター共通予算による機器類の購入について 3. センター報告第30号の依頼について	1. センター報告第29号について 2. フィールド科学センター利用申込状況について 3. 半田山自然教育研究林使用届出書について 4. 技術部会議等について 5. 生産物の販売について
20. 2. 6	1. 予算編成方針、増減収取扱、目的積立金執行の通知について 2. 平成20年度センター併任教員について 3. 平成20年度センター専任教員のコースへの併任について 4. センター選出委員について 5. センター開講全学解放科目「ガーデニング入門」について 6. 附属山陽圏フィールド科学センター講演会について 7. 技術部技術職員体験発表会について 8. 天満屋への平成20年度出店更新について	1. センター報告について 2. 平成20年度センター実習（案）について 3. 平成18年度法人監査室協同監査での指摘事項のその後の報告について 4. 電気設備保安点検の実施について 5. 常勤・非常勤職員の採用について 6. 半田山自然教育研究林利用申込状況について 7. 技術部会議等について 8. 生産物の販売について
20. 3. 5	1. 平成18年度農場収入還元額（案）について 2. 平成20年度センター運営会議委員について 3. 平成20年度センター実習実施要項（案）について 4. 「ガーデニング入門」について 5. 「牧場実習」の中四国農学系学部生向け開講について	1. センター講演会及び技術部技術職員体験発表会について 2. 平成20年度公開講座について 3. センター報告について 4. 部門別・年度別2月末現在の収入状況について 5. 技術部会議等について 6. センター生産品事務取扱要項の改訂について

## ( 6 ) 施設開放状況

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
20. 1. 7	1 . 平成20年度作付計画（案）について 2 . センター共通予算による機器類の購入について 3 . センター報告第30号の依頼について	1 . センター報告第 29 号について 2 . フィールド科学センター利用申込状況について 3 . 半田山自然教育研究林使用届出書について 4 . 技術部会議等について 5 . 生産物の販売について
20. 2. 6	1 . 予算編成方針、増減収取扱、目的積立金執行の通知について 2 . 平成20年度センター併任教員について 3 . 平成20年度センター専任教員のコースへの併任について 4 . センター選出委員について 5 . センター開講全学解放科目「ガーデニング入門」について 6 . 附属山陽圏フィールド科学センター講演会について 7 . 技術部技術職員体験発表会について 8 . 天満屋への平成20年度出店更新について	1 . センター報告について 2 . 平成 20 年度 センター 実 習（案）について 3 . 平成 18 年度法人監査室協同監査での指摘事項のその後の報告について 4 . 電気設備保安点検の実施について 5 . 常勤・非常勤職員の採用について 6 . 半田山自然教育研究林利用申込状況について 7 . 技術部会議等について 8 . 生産物の販売について
20. 3. 5	1 . 平成18年度農場収入還元額（案）について 2 . 平成20年度センター運営会議委員について 3 . 平成20年度センター実習実施要項（案）について 4 . 「ガーデニング入門」について 5 . 「牧場実習」の中四国農学系学部生向け開講について	1 . センター講演会及び技術部技術職員体験発表会について 2 . 平成 20 年度公開講座について 3 . センター報告について 4 . 部門別・年度別 2 月末現在の収入状況について 5 . 技術部会議等について 6 . センター生産品事務取扱要項の改訂について